



熊本国際空港株式会社

代表取締役社長 山川 秀明

阿蘇くまもと空港の今

熊本地震からの“創造的復興”のシンボルとされる阿蘇くまもと空港は、新しい旅客ターミナルビルが昨年3月23日に供用を開始してから1年がたちました。おかげさまで多くの方にご利用いただき、2023年度の旅客数は320万人超に。オープン当初から「送迎者が利用できる店をもっと増やして」といったさまざまなご意見をいただいたのは、新しい空港に対する期待の表れだと受け止め、一つ一つの課題に向き合ってきました。阿蘇くまもと空港は民間委託の空港です。民間委託で何が変わったのか、将来像は一。少しでも地元の空港に対する理解が深まれば、との思いで2回にわたり筆を執らせていただきます。

2016年の熊本地震での被災を機に、阿蘇くまもと空港は「コンセッション」という方法で民間委託されることになりました。コンセッションとは、国が滑走路など空港施設の所有権を持ったまま、民間企業に長期間の運営権を与える事業の形です。コンペで三井不動産や九州電力、九州産業交通ホールディングスなど民間11社のチームが運営権を獲得し、各社と熊本県を株主とする熊本国際空港株式会社が設立されました。2020年4月から滑走路、ターミナルビル、駐車場の一体的な管理・運営をスタートさせ、今に至ります。

社員112人は、株主からの出向者や以前よりターミナルビルを運営してきたメンバー、新規や中途の採用者、国から派遣されているアドバイザーなどになります。経営におけるダイバーシティの重要性が指摘される中、空港や地元をよく知る人、他の会社で経験を積んだ人、専門知識に長けた人などで構成される当社は、まさに多様性に満ちた集団です。そうした一人一人が「空港を成長させる」という同じ目的に向かって取り組んでいる状況は会社にとって大きな強みであり、ポテンシャルの高さには自信を持っています。

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより

アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)